

<第 28 回国土交通省管理職ユニオン定期全国大会 開催される！>

全国から37名参加！

活動の総括と運動方針を議論



近藤委員長挨拶

□委員長挨拶

大会参加の感謝の後、次のように発言しました。
『①コロナ禍が大幅に緩和された中で、大会ということで、感染数は大幅に減ったが、引き続き1日開

国土交通省管理職ユニオンは、五月二十四日（土）に第二十八回定期全国大会を大阪市で開催しました。参加者は代議員、役員等の37名で、この1年間の活動の総括と、今後の運動方針について、活発な議論を行い、全会一致で確認されました。

催とした。②結成後四半世紀、事務所課長役職定年24ヶ月前などの昇格改善や、管理職特別勤務手当の創設・改善、6年連続の増員など、多くの要求を勝ち取った。③職場内外の労働環境の変化として、在宅勤務などによる若手職員とのコミュニケーションの減少やテックフォースなどの派遣による労働強化、60歳以降の働き方をめぐる様々な課題が明らかになってきた。④ユニオンを強く大きくすることへ

の必要性。⑤本大会を新たな一歩を踏み出す大会にしたい。』

□職場を取り巻く情勢に対する意見

○国道の出張所長の負担が大きい。働き方改革の一環で、PFIの導入も考えられるが、どの程度効果があるのか。

○中部では砂防の出張所が統廃合にあつて、出張所長ポストが減った。もとの所長が60歳だったので役職定年となり、専門調査員となり同じ職場にとどまった。仕事は同じだが給料だけ下がったという事例がある。

○人事行政諮問会議のなかで、企業比較規模を50人から100人に戻す、また本省は1000人以上とする。という意見が出ている。管理職になると給料が下がるという意見もある。

り、その辺を改善する動きがある。人事院勧告前に、人事院に何らかの働きかけをして拡大に繋がらないか。

○国交省の職員が防災庁に出自している。何か情報がないか。

（裏面につづく）



討議の状況



国土交通省
管理職ユニオン

No.393
2025 年 7 月 25 日

【発行】
国土交通省管理職
ユニオン

【所在地】
東京都千代田区
霞ヶ関2-1-2 中央
合同庁舎2号館
TEL 03-3509-1138

【Email】
k-union@aloha.ocn.ne.jp

【ホームページ】
<http://www.k-unionnetwork/>

管理職の処遇改善に頑張ります！

ご協力よろしくお願いします。

<2025年度 執行体制>

役職	氏名	支部
委員長	大枝 千晋	近畿
副委員長	加藤 正己	近畿
副委員長	秋田 尚孝	中部
副委員長	白井 宏樹	地理
事務局長	南谷 達也	北陸
事務局次長	星野 豊	関東
執行委員	葛西 健司	東北
執行委員	斉藤 真	北陸
執行委員	小林 治	関東
執行委員	田口 泰久	中部
執行委員	津村 智明	近畿
執行委員	末永 敦	中国
執行委員	土居 寛幸	四国
執行委員	興梠 逸郎	九州
執行委員	針間 栄一朗	地理
会計監査	笠原 祥一	関東
会計監査	中野 はつ子	中部
事務局員	上林 喜美夫	関東
事務局員	山本 健二	近畿

□処遇改善に向けた運動について

○6級昇格について、出張所長が6カ月遅れ

(表面よりつづく)
○2024年度は定員割れとなっていると聞いているが、そもそも採用されている新採が土木系以外の分野から入ってきている人が多くなっている。

て発令するという意味のない発令をしている。また、課長、出張所長が定年3年前に出せるとなっているが、本当に出せるだけの定数があるのか。《定数は十分あると思われる》

も担当することになった。出張所の重要性を訴えていくことが重要。
○官房長交渉の時に、官房長が、出張所を廃止することに対して、組織全体での最適化といった内容のことを回答されたが誰に対しての最適化か、追求してほしい。国民に対しては当然出張所が減ることは最適ではない。

□その他

○中部では砂防と河川の出張所を統合して、流域治水出張所になっている。他の地整でも同様の統合をしているのか。《中国でも似たような統合がされている。》

○アンケートについて、管理職続けたいかどうかも聞いた方がよい。若い層からも魅力がないが、その問題点が出てくるのではないか。
○能登復旧では、北海道から九州までの地整が応援を出して頂いている。宿舎は金沢など遠くから通勤してもらっていたが、今年度から近くなった。

○道路の雨量規制で、今までは3時間でリセットだったが、6時間のケースもある。当然ながら人手が足らなくなる。

○管理職手当について、若い職員から安すぎると言われた。若い職員も管理職に魅力が感じられないと思われる。

